

2021年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
---------	--

本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一面を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。
-------	---

学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は教育活動（必修科目・卒業研究）、特別教育活動（クラブ活動・生徒会）、安全管理、運営（図書）、学校いじめ防止方針に基づく取組の実施状況について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。
------------------	---

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 読解および表現活動を中心に授業を展開し、論理的思考力、表現力、語彙力の向上を図る。古典の学習を通じて、伝統文化の本質および古典を学ぶ現代的意義を体得できるようにする。	幅広い時代の多様な文章に触れる。読解の解説にとどまらず、発展的に考え、表現する機会を設け、理解が深まるよう導く。	長い文章を書く表現活動・対面での話し合い・グループ活動が制限された。 多様な文章を読ませ、Teamsを活用した表現・意見交換・研究発表にも力を入れた。	B	発表・意見交換の機会を充実させ、考え・表現する力を伸ばす。 オンラインでのグループワークの可能性を模索し、インタラクティブな授業を目指す。次年度から始まる新カリキュラムに的確に対応する。
	地理歴史 日本および世界の成り立ちや各地域の特色を学ぶことで、社会的な見方・考え方を深め、基本的知識や論理的思考力を養う。	資料や映像などを効果的に活用し、興味関心を高めながら、幅広い知識を習得させ、深い理解を促す。	地理的・歴史的事象やその関係性を概ね学ばせることができた。また、論理的思考力を一定程度養うことができた。	B	授業時間が潤沢にないため、授業で扱えない分野も存在する。今後とも、資料や教材の精選に努め、多角的な視野から授業を展開できるようにしたい。
	公民 人間としての生き方や、現代の政治・経済・国際関係などについて理解を深め、主体的に考察する力を養う。	特定の内容に偏らないように留意し、分野横断的なテーマの取り扱いも行う。資料をもとに諸課題を考察する。	対面授業と遠隔授業を併用し、現代社会の諸課題に対する「見方・考え方」を働かせる授業を実践できた。	B	MS Teamsを活用して生徒自身が主体的に取り組むレポートやプレゼンの機会を増やし、思考力や判断力の涵養に一層努める。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	基礎学力の向上、より興味のある生徒には発展的学習等、適宜実力に応じた指導ができた。	A	引き続き基礎学力の定着を確かなものとし、さらにきめ細かい指導が出来るように指導案を充実させる。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、身近な現象が科学と密接に関係していることを理解する。	授業を通して基礎知識の定着を図り、可能な範囲で体験的な実験、観察等を行うことにより思考や理解を深める。	講義・実験・演習を三位一体として、基本的な内容から応用の範囲まで理解を深めることができた。	A	突然の遠隔授業への対応もできるように、オンラインの環境や方法を強化できるとよい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	保健体育 身体活動を通じ、運動やスポーツの技能を高め、将来の健康的な生活習慣の礎を築く。健康について正しい知識を学習する。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分する。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習する。	個人・集団スポーツを偏りなく授業に配分し授業を実施できた。BLS教育を通じ、「命」の尊さを学習することができた。	A	次年度も感染予防対策の為に遠隔授業になる恐れもあるので、こちらに対応できる学習材を充実させ、対応できるようにしておく。
	芸術 豊かな表現力と幅広い知識、加えて鑑賞する能力を高める。	基礎知識および表現方法を講義、実習において会得する。さらに芸術作品を鑑賞することにより感性を高める。	生徒の芸術に対する関心や創作意欲を高めるといふ点において、概ね目標は達成できた。	A	引き続き芸術への理解が深まるよう創意工夫し、高いレベルの表現を追求させたい。
	外国語 英語 4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく引き伸ばしながら、多言語・多文化への理解を深める。	語彙・文法事項の習得をしながら、様々な言語活動の機会を多く提供する。	LMSやTAの活用により、授業内で生徒に言語運用を促すことができた。	A	遠隔授業の期間も柔軟に対応しながら、学習を進めることができた。次年度では新課程への円滑な移行が課題となる。
	第二外国語 基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。それぞれの言語を通して他文化への理解を深める。	2年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、3年次での学習にも繋げる。	生徒のレベル差が見られる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B	①定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ②リスニング練習の回数を増やす。 ③実践の機会をさらに増やす。
	家庭 独り立ちに必要な知識と技術を習得させ、持続可能な生活を営む態度を養う。	生活と社会・環境への影響を関連づけて指導する。	知識と技術の定着は概ね達成できたが、持続可能な生活を営む態度を養う実践的学びの機会が不十分な分野もあった。	B	持続可能な生活のためにできることを各分野で考えさせ、また、様々な手段を用いて実践的学びの機会をつくる。
	情報 教科情報に限らず、他教科での学習活動にも貢献できるよう、ネットを通じた学習環境の整備に努める。	電子メールの使い方を確認させるとともに、適切に使用できるよう実践的な指導を行う。	ネットを通じた学習活動における電子メールの比重が昨年度に比べて下がったこともあり、基本的な指導にとどめた。	B	生徒間の既習内容の差が大きいことが予想されるプログラミングに関して、チーム・ティーチングを活用して適切な指導を行いたい。
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で分類を設定し、生徒の希望に応じた選択ができるようにしている。生徒各人が論理的思考を養い、表現力を身につけ、大学へ進学するための準備をさせる。 最終的に49講座を設置した。その内訳は、言語系4講座、社会系15講座、数学系9講座、理科系6講座、保健・体育系7講座、文学系2講座、芸術系（音楽・美術）3講座、情報・コンピュータ系2講座、家庭・生活系1講座である。 優秀な卒業研究として8作品を選出した。 				
	国語 生徒が自身のテーマを発見し、深められるよう、適切な指導、助言を行う。あわせて、論文の執筆に必要な知識および表現力を身につけさせる。	参考となる図書や学術雑誌の紹介のほか、映像等の紹介や講読・上映会、必要に応じて発表、実地研修、講師の招聘などを行い、論文執筆の動機付けを促す。	生徒が主体的にテーマを選び、問題を設定した。先行研究にも目を通しつつ調査し、グループでの討論等を通して自らの結論を導き出すことができた。	A	参考文献の全体共有、IT機材の活用等により研究活動をさらに充実させたい。 生徒数が20人を超えるときめの細かい指導と論文の添削が難しいので、15名以内が望ましい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
卒業研究	社会 自らの興味関心に基づいて研究テーマを定め、先行研究や史資料を積極的に収集し、最終的に12,000字程度の論文として研究成果をまとめる力を育む。	各担当教員の指導のもとで、各分野の基礎基本を学ながら、発表や議論を通して研究を進める。	生徒が自ら設定した問いに対して、先行研究などを踏まえて多角的・多面的に考察することができた。	B	自ら関心のある問いを設定することが難しく、生徒個人により沿いながら、より丁寧な指導が必要だと考えられる。
	数学 枚数・字数制限は設けなないが、論文を提出させる。基礎的・応用的な知識を身につけ、論文を作成する力を育む。	各自のテーマごとに課題を見つけ出し、より良い解決策を考察する。	4月当初は目標が定まらない生徒が多かったが、年度末には全員が論文と呼べるものを書き上げた。	A	生徒の方向性が一人一人異なるので、指導がしにくい。もっと少人数で行うことができれば、生徒もさらに良い研究ができると思われる。
	理科 理科の各分野からテーマを設定して探求する。学習、実験、調査を通して研究方法や科学的思考を学び、体験的に科学を理解する。	実験観察・観測・文献検索・発表などを通して、科学的研究の方法を経験させ探求活動を行わせる。	各自が設定したテーマに基づき、実験・観察を行い、データを分析し、学習内容を活かした考察を行うことができた。	A	できるだけ全員のニーズに応えられるような環境や用品の整備ができるとよい。
	保健体育 体育・スポーツや健康に関する事をテーマとし、調査・実験によりデータを収集し、分析を行う。	研究テーマをゼミ形式で学習し、プレゼンと論文作成の技法を習得する。学年末にオリジナル論文を提出する。	担当教員の指導の下で、生徒は自分の研究結果やその成果発表し、学年末にオリジナル論文を提出した。	A	次年度も遠隔授業になる恐れがあるので、実験計画を少し前倒し、余裕を持って論文完成ができる授業展開とする。
	芸術 興味ある分野について自主的に調査・考察させ、10,000～12,000字の論文を書かせる。	対象とする時代や作家についての資料を集め、調べた内容を論文としてまとめる。場合に依りて創作を伴う。	資料を集めることに時間がとられ、考察する時間が不十分なところもあった。	B	資料の集め方を工夫し、結論までに考察する時間配分を改善したい。
	外国語 言語にまつわる様々な分野の問題・課題に対して生徒の関心・理解を深める。またそれを表現する方法を身につける。	様々な言語材料に触れながら、言語・文化に対する理解を深め、考察する力を育む。また自分の考えを学問的に表現する手法を身につける。	各々のテーマを仲間と共有しながら、理解を深め、自分たちなりの考察をまとめることができた。	B	少数ではあるが、経過の見通しが甘く、自主的に研究を進めることに苦慮する生徒がいた。個々人の進捗のばらつきに対し柔軟に対応、指導したい。
	家庭 今日の生活の課題を発見し、調査・考察を行い、論文を作成する力を身につけさせる。	研究計画を示すとともに、定期的に発表・意見交換をさせ、主体的な取り組みを促す。	概ね達成されたが、調査の分析、考察にやや精彩を欠く場合もあった。	B	生徒間コミュニケーションを増やすなど視野を広げる機会を増やし、調査結果から新しい知見を得られるよう指導したい。
	情報 研究テーマを適切に設定し、あわせて、研究成果をあげるための方法を身につけさせる。	研究自体の概念、学術論文の探索方法などを理解させるとともに、適宜発表の場を設けることにより、積極的な取り組みを促しつつ、研究法の定着を図る。	担当外の教職員を招いた年間3回の2クラス合同発表会を行うなど、積極的な取り組みを促す緊張感を伴う機会をもつことができた。	B	生徒それぞれの活動に必要な指導が大きく異なることがあるが、それをクラス全体への指導の中で実現することに課題がある。生徒間で教えあえる雰囲気づくりをより進めることで改善したい。
<p>・受講した生徒にアンケートを実施した結果、取り組みに対する満足度（数字が大きい方が満足度が高い）は5…48.5%、4…36.3%、3…9.7%、2…3.5%、1…2%であった。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んでよかったと感じた点（複数回答可）は、「今まで知らなかったことを知ることができた」が最も多く58%、次に「論文の書き方を学ぶことができた」56%、「自分の好きなテーマを突き詰めることができて満足した」51%、「達成感があった」47%となっていた。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んで、こうすればよかったと思うこと（複数回答可）は、「もっと内容を掘り下げればよかった」が最も多く48%、次に「計画的に研究を進めればよかった」44%、「参考文献・データを増やせばよかった」37%となっていた。</p>					

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
特別教育活動					
クラブ活動・生徒会	クラブ活動 クラブ活動を通じて、生徒の健全な心身の育成を目指す。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、生徒の安全確保を第一に無理のない活動計画の下、安全管理・事故防止の徹底を図る。	各クラブにおいて感染防止対策の確認・徹底を図り実践する。キャプテン・マネージャー会議を通じて、救急対応・熱中症対策等安全管理に関して周知する。全国大会出場支援基金を行い、遠征旅費等の経済的負担を補う。	首都圏の感染状況の悪化により、活動不可や頻度に制限を設けることが度々あったが、生徒たちはその状況を理解し、オンラインを活用する等、クラブごとの工夫が見られた。感染防止対策に加え、事故防止等への配慮も徹底され、安全管理への意識を高めることができた。	A	次年度も新型コロナウイルス感染症への対応をとりながらの活動となる。部長・副部長の指導の徹底により、各クラブの感染防止対策は浸透している。引き続き基本的な感染防止対策を緩めることなく実践していくことが、今後の安全な活動につながるという意識を再確認するとともに、感染状況に応じた活動内容の工夫をすることで、コロナ禍におけるクラブ活動の充実を図る。
	生徒会活動 各クラブの通常活動はもとより安全対策のための経済的支援を充実させる。コロナ禍における学校行事の実施にあたり、可能な範囲での積極的な参加を図る。	球技大会・陸上運動会等、学校行事の運営に携わり、コロナ禍での実現に向けて、綿密な計画を立て、感染拡大防止対策を図りつつ、より充実した内容になるよう準備をする。	感染拡大防止への対応を第一に、可能な範囲での学校行事実施への努力を惜しまなかった。各種イベントのオンラインでの実施、球技大会については学年別・競技時間を短縮しての新たな形式を作り上げ、開催することができた。		引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応を求められる中での活動となる。感染拡大防止とイベント開催を両立させるための工夫をより一層意識し、オンライン実施を前向きに取り入れつつ、対面開催を実現させるための新たな方策を積極的に提案・検討する。感染状況のレベルに応じた、複数の代替案を立てるためには早期の対応が必要となるが、先を見据えての準備が不可欠であることを生徒に気づかせたい。
安全管理					
設備	<ul style="list-style-type: none"> 教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。 生徒の動線に目を配りながら、安全面に配慮する。 校内の老朽化した部分の改修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。 生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じて危険個所の点検を行う。 第一校舎の外壁の修繕を行う。地下小体育館の床の張替えを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、点検を実施し、危険個所の発見に努めた。 第一校舎の外壁の修繕および地下小体育館の床の張替えを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設・設備の保守・点検を定期的に行う。 生徒会役員の協力を得ながら、生徒の目を通じての危険個所の発見を継続して行う。 校内の老朽化した部分の改修を行う。
保健衛生	環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。保健衛生に関する情報を生徒に適宜提供する。新型コロナウイルス感染症への対応を引き続き検討する。	年2回、環境衛生調査を継続して実施する。関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。特別教室のカーテンの改修を行う。校医と連携し、有効な感染症対策を実施する。手洗いは継続指導し、教室の消毒を必要な範囲で行い、教室ごとにアルコール消毒薬の設置を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生調査を2回実施した。 感染症などの啓発を行った。 新型コロナウイルス感染症対策をとして教室の換気対策を呼び掛けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 環境調査を引き続き実施していく。 保健衛生に関する講演会を実施して、情報発信していく。 新型コロナウイルス感染症への対策を引き続き実施する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
危機管理	生徒・教職員が安全で安心して学校生活を送ることができる。 安全教育を推進する。 安全管理を徹底する。 非常時の意思決定の方法について検討する。 非常事態が起こる前に、想定される対応策を準備する。	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の実施。 生徒・教職員対象のBLS講習の実施。 緊急時一斉連絡システムの継続。 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、学校運営の平常化を図る。 9月に備品の補充点検の実施。 南海地震クラスの大災害が発生したときどのように対応すべきか、校内で議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で行事が中止となった。 緊急時一斉連絡システムで非常時の連絡を行った。 新型コロナウイルス感染症対策を徹底した。 非常時の対策を全教員対象に確認し、周知した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大規模地震発生時の対応について検討し周知する。 新型コロナウイルス感染症対策を万全にする。
運営					
図書	各教科の教員と連携し、普段とは異なる選書（企画）を行いたい。その一例として、教員推薦の学習漫画等がある。また、学校資料のアーカイブ化を行い、生徒向けに活用する。昨年度中断した卒業研究対策セミナーを再開する。	社会科や理科、司書教諭の選定で学習漫画コーナーを設置。創設期からの古い新聞アーカイブを活用し、教員と協力して掲示物を作成・広報。3年生を対象に文献の調べ方セミナーを実施する。	各教科の学習漫画コーナーは多数の貸出があり、関連主題の単行書の利用へも繋がった。古い慶應義塾高等学校新聞はクラス掲示を行った。卒業研究対策セミナーは今後も継続する。	A	今年度は学校カウンセラーとの共同企画で展示企画を行い、新たな視点からの選書を行うことが出来た。次年度はそうした経験を活かし、生徒の気づきに繋がるような書架を展開したい。図書館システムについて、既存のサーバからクラウドへ移行する予定である。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況					
いじめ防止対策	生徒の声を受け止め、しっかり向き合う。 迅速に、組織的に対応する。 保護者、関係機関との連携を図る。 教員向け講座を実施し、教員の対応のスキルアップを図る。 インターネット上のいじめへの対応を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 担任による個人面談、保護者との面談を実施する。 ホームルーム、部活動を通して望ましい人間関係の構築を進める。 いじめ事案に対し、いじめ防止対策委員会を核とした対応を行う。 あらゆる情報に迅速に対応する。 相談室の利用を促進するための保護者向けの講演会を実施する。 教員向け講座を実施する。 相談室担当教員の講習会参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者との面談を必要に応じて実施した。 保護者、生徒に相談室の積極的な利用を促し、相談室と連携して対応した。 保護者向け講座を2回、教員向け講座を4回実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者との面談を積極的に実施するように機会を捉えて促す。 保護者向け講演会を対面もしくはオンラインのどちらの形式にするか検討したうえで実施する。 教員向け講座を開催し、幅広い参加を募る。